

「二〇一三年度卒業論文題目」

(考古学)

吉田 彩 「日本古代都城廃絶後の変貌」

―平城京と長岡京の土地分割―

半澤 秀憲 「古代の律令国家における北上川流域の地域支配」

―桃生城跡・赤井遺跡・田道町遺跡を中心に―

(中世史)

岡本 杏香 「院政期御室法親王制における守覚法親王の位置づけ」

金子 卓司 「中世石清水八幡宮と足利氏」

―善法寺門跡の待遇を中心として―

後藤 彩花 「古代・中世における水銀の在り方―伊勢水銀を中心に―」

柴野 由伊 「室町期における乳母家の社会的役割」

(近世・近代史)

雨皿 悠佳 「幕末期紀州藩田辺領における医療と地域社会」

江坂 美奈 「東海道二川宿本陣の経営構造」

―「宿帳」にみる贈答儀礼の分析から―

岡本ほか 「近世村落における宗教者たちの存立構造」

―紀州藩領尾鷲組の僧侶・神主・山伏を事例に―

土田 朱音 「近代津海岸の発展過程―『伊勢新聞』の分析から―」

濱野 大智 「紀州藩領尾鷲組米騒動の特質」

―行動様式と組織構造の観点から―

藤本 里羅 「近世の松坂木綿の染色と流通」

船山 直利 「近世旅文化における日光の表象―『道中日記』の分析から―」

松岡 志帆 「近世商家台所奉公人の雇用形態」

―伊勢商人長谷川家を事例に―

(東洋史)

中村 千夏 「秦と漢初における政治制度の比較」

―郡県制と郡国制を中心に―

「二〇一三年度修士論文題目」

辻直 樹 「古代伊勢国朝明郡郡衙政庁比定地についての」

考古学的一考察

杉山亜有美 「近世・近代の志摩地方における村社会と漁業規制」

―漁業組合規則の歴史的前提―

小川 真依 「伊勢志摩における近代的産業の発展と地域社会」

―真珠産業を中心に―

「編集後記」

本誌の生みの親である山中章先生の御退職の年を迎えた。一九九八年に三重大学人文学部に御着任以来、学界での精力的な御活躍は周知の通りであるが、大学教育の上でも多大な貢献をして頂いた。不夜城の如き考古学研究室からは多くの俊英たちが巣立っており、中世・近世ゼミの学生たちも、卒論指導などを通して薫陶を受けた。現実社会との緊張関係のなかで課題を設定する厳しさを教わった者は少なくないであろう。本号は、いささかの御礼の気持ちを含めて、御退職記念号としている。合わせて、御健筆を振るわれた東洋史の高村武幸先生も母校の明治大学に戻られることになった。今年は歴史研究室にとって大きな時代区分の年となった。両先生の今後益々の御活躍を祈念すると共に、新たな段階での更なる飛躍を期したいものである。(C)

三重大史学 第一四号

二〇一四年三月三一日発行

編集・発行 三重大学人文学部考古学・日本史・東洋史研究室

〒五一四一八五〇七

三重県津市栗真町屋町一五七七

TEL: 〇五九一三三二一―二二二一 (代表)

FAX: 〇五九一三三二一―九一九九 (共同)

MAIL (山田雄司): yyanada@human.mie-u.ac.jp

印刷 伊藤印刷株式会社 (津市大門三二一―一二)